「桜の樹」 ニュースレター vol 3

岡倉天心記念　がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」　2021.6

新緑の桜の樹

『真の国際人』～「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物 ～

樋野興夫

内村鑑三（1861-1930）の『代表的日本人』（1894年）、新渡戸稲造（1862-1933）の『武士道』（1900年）、岡倉天心（1863－1913）の『茶の本』（1906年）はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。 英語で、日本（人）を深く、広く、丁寧に 海外に紹介出来た人物は、この 3人 ではなかろうか！　この3人は、「英語力 と 教養」を備えた 明治以降の 日本が誇れる人物である。 明治時代の3人の 「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三･新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう！

『真の国際人』の3か条

理念：　「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」

使命：　『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』

社会貢献：『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

樋野先生が20年前、熟読された
『茶の本』　岡倉天心（覚三）著
岩波文庫

ヌーの大移動　　河合　章

これを観に行こうと思ったのは、2016 年にケニアを訪れ、それなりの収穫があったのですが、その時お世話になった現地のガイドから、「次回来られる時には、是非ヌーの大移動の季節に来て欲しい。きっと大満足して貰える自信があります。」とのことで、9 月頃に再訪する予定でした。

しかし、年末に受診した検査結果で、前立腺がんの疑いがあり精密検査を受けたところ、やはり前立腺がんが判明しました。それでも治療を受ける前に、「やりたい事を先にやってしまおう」と決心し、主治医の先生に 9 月まで時間の猶予を貰い、ケニアのマサイマラを再訪しました。

ヌー達が 200 万頭以上の大群で、タンザニアからケニアに移動してくるのは、サバンナの大草原に雨が何時でも降って、餌になる草が豊富に有れば良いのですが、雨雲が北上するので、これを追って 3000k も大移動しなければならないのです。この道中で、最大の難関が急流のマラ川の渡河なのです。

このヌーの大移動は、テレビのドキュメンタリー番組で何度も観たのですが、是非その現場に行き、 本物の迫力ある写真やビデオに撮りたいと常々思っていました。実際に現場で観ると、五感で感じる以上のその場の雰囲気など、言葉では言い表せない大感動を味わいました。それはヌー達やその他の自然の動物達が、懸命に生きていく姿そのものだったからですね。

まあ、この事は先日の巣鴨がんカフェ「桜」で、樋野先生の「無頓着に大胆になる事」を、私なりに知らない内に実践していた事になっていました。この前向きな姿勢が、現時点で前立腺がんが大人しくしてくれているのではないかと思っています。

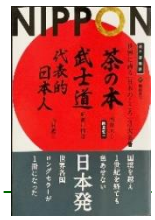
2017年　ヌーの河合さん撮影

コロナ禍　私の時間の過ごし方　　ミニオン

皆さん自宅で何をされてますか。
外が恋しねー。
TV を見ると今日の感染者は〇〇〇人です。変異ウイルスが蔓延しています。ワクチンはいつ接種できるのかなわからない。オリンピックはやるの。楽しみ。でも怖いなー。
そんな話ばかり・・
私は写真を撮るのが大好き。小さなフィギュアを持って美味しいお店に入ってパシリとシャッターを押すのです。そしてインスタに上げるのが快感なのです。でも最近お写んぽが減りました。その理由は・・
最近健康診断でチョット太り過ぎ！！。の警告サインがでてしまいました。生活習慣を改善しなければなりません。
甘い物を控えなさい。良く噛んでゆっくり食べましょう。
私はおっとり性格なのですが食べる時はセッカチに変身。
撮影変更しなければ・・
お家写真。でも家だとダラダラしちゃうんだな。ボヤキ話しでした。

３大名著　　あたまは波平

ニュースレター「桜の樹」の創刊号で、 樋野興夫先生が『真の国際人』の本として、「代表的日本人（内村鑑三著)」、「武士道（新渡戸稲造著)」、「茶の本（岡倉天心著)」を挙げていらっしゃいます。
「なかなか、これらの本が見つからない。」 とおっしゃる方がいらっしゃるかもしれませんね。
私も読んでみたくなり、 何軒かの書店を廻り探しましたが、 見つかりませんでした。
そこで、 パソコンを使って調べたところ、「現代語新訳」 としてこれら３つ の本を１冊にまとめた本が出版されていることを知りました。
何事も単純なものから手をつける質ですので、『武士道』 から読み始めて「難しい」 と言われている 『茶の本』 は最後に読もうと思っています。(^^ゞ



『現代語新訳 世界に誇る「日本のこころ」3 大名著』
「茶の本」、「武士道」、「代表的日本人」
パンローリング(株)

ミニオンのお写んぽ

がんカフェは、わたしにとってとても不思議な場所です　　コジコジ

参加するメンバーは、年齢も今ある環境も様々ですが、話していると、自然に一体感が生まれます。そして、みんなで作り上げる場所だなと感じます。私は、カフェを開催し、司会をするという役割を与えられており、毎回正直なところ緊張する場所でもあります。
先日のカフェに、初めて参加された方がいました。ご自分の病気のこと、これからのことを話され涙を流しておられました。そんな時、ある他の参加者の方が、沖縄の土地や気候についての話を始めました。何のつながりも無い話でしたので司会の立場としては、一瞬「どうしよう」と思ってしまいました。
すると、涙を流して話されていた方が、実は旅行が趣味で、昔沖縄に何度も行かれたと話されたのです。その時の表情は笑顔にあふれ、輝いていました。まさにみんなで作るカフェを感じました。
「病気であっても、病人ではない」、その方の一人の人としての姿が見える時でした。 そして、自分に与えられた人生を、そこから逃げずに受け止めている参加者の方々のお話を聞き、姿を見せていただき、私自身も自分に与えられた人生を受け入れいて生きていくということを教えていただいています。

編集後記　　さくら

ニュースレター　vol 3、巣鴨カフェのリピーターの皆様のお力をお借りしながら、完成しました。コジコジさんは、巣鴨の少し前にカフェを始められました。２年前、最初のカフェを終えたばかりの私は、泣きながらそのカフェに参加し、コジコジさんが緊張されながらも穏やかに、そして真摯に司会を努められるご様子に勇気づけられたことを思い出します。カフェを通して与えられた、皆様とのこうしたつながりに感謝する毎日です。

編集：岡倉天心記念　がん哲学外来
巣鴨カフェ「桜」　山本　ひろみ
TEL 090-8501-0826
gantetu_sakura@yahoo.co.jp
https://sugamo-sakura.com/
後援：一般社団法人がん哲学外来